

本事業への思い

田浦健次郎
東京大学情報基盤センター長
taura@itc.u-tokyo.ac.jp

本事業参画にかける思い

データ基盤をちゃんと「存続
する」国の基盤にしたい

- いくつかの注：
 - データ基盤：ストレージ＋計算能力（データ置き場だけではない）
 - 存続する：30年分の予算をつけてくださいとかそんなことをいっているのではない（実践的・常識的な意味で）

〇〇基盤 (mdx, GRDM) お使いください！

5年後に次期システムがあるかもわからん基盤にデータはおけんよ... **自分で安いHDD買うよ**

。。。でも、ストレージだけじゃなくて利活用のことも考えたら〇〇が正解だと思いますよ

ゆーてはることはわかるけど、来年度、再来年度うちにお金があるかもわからへんから、**お金があるうちにハードを買うよ**

こうして、データ共有の機会が失われて行っている (のかもしれない) ...

もう少しまじめな言い方で...

- データの寿命 > サービスの（確約できる）寿命
- 実はハードを購入したところで故障、EOL（サポート終了）もあるので、ずっと使えるなどというのは幻想だが、
- ハード購入 = 数年先までの前払い、という意味もある
- 今年500万あればそれでハードを買えばその寿命までの最低基盤が確保できる。ストレージ・計算機利用料を払う方式ではそれができない。5年先まで先払いすれば不正で捕まる。なので自分でハードを買うのが選択肢になってしまう。これが世の中を歪めている

歪めていると言えば...

- この話は補正予算ではハードしか買えない、後年の保守運用費は出せない、という話と似ている
- 国の基盤を作るべく予算を要求したくてもいつも「保守費が後年度負担が...」という話になる
- 「予算は単年度使い切り」「来年は来年の風が吹く」という会計・国の予算のシステムの問題
- 建前は毎年概算要求だが、事実上10年間認められているようなケースもあるのだから絶対できないという話ではない筈
- 要はどの範囲の予算要求にそれを認めていくかという線引き、匙加減の問題のはず

それ、本事業の話と関係ありますか？

- エコシステム = 活発な利用者コミュニティによる成果創出
- そのために多くの分野でデータの整備・共有・利活用が進むことが鍵だと信じてやっているつもり
- そのためのデータ基盤の存続すら見通せないのでは...
- 本事業で「データ基盤を活用; データ基盤に依存」した優れた成果を創出する（それを支援する）ことで...
- 国が10年に一度のフラッグシップ計算機にかけるエネルギーの20%でも「データ基盤の存続」にかけてくれるようにするよう頑張ります（一緒に船に乗ってください！）